渋沢栄一の教育事業

栄一は、日本の経済の礎を築いたばかりでなく、実業界以外の幅広い分野で活躍しました。国づくりのためには、教育の整備が不可欠だと考え、さまざまな学校の設立に携わりました。

商法講習所石碑

商法講習所　提供：一橋大学

【実業・商業教育への支援】

栄一が設立に関わった学校には東京商法講習所や大倉商業学校などがあり、特に実業教育に力を入れました。当時の商人を経済人として育成し、地位を向上させるためにも、実業教育が必要だと考えたからです。

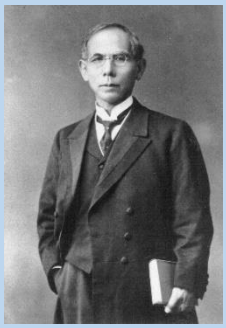
明治 8 年（1875）には、森有礼が中心となって銀座尾張町に商法講習所が設立されましたが、まもなく存続の危機に立たされ、栄一が会頭を務める東京商業会議所（現・東京商工会議所）が運営を行いました。商法講習所では英語教育が重視され、英語で授業を行なうとともに、銀行や模擬貨幣を用いた商取引の実践授業も行われました。この商法講習所が現在の一橋大学（現・国立市）の前身であり、銀座 6 丁目の複合商業施設 GINZA SIX の入口に石碑があります。

また、栄一は大倉財閥を築いた大倉喜八郎によって創立された大倉商業学校の創立委員にも名を連ねました。大倉商業学校は、現在の東京経済大学（現・国分寺市）の前身であり、虎ノ門にある The Okura Tokyo （旧ホテルオークラ）の敷地付近に石碑が建っています。

【女子教育への支援】

栄一は、海外で女性が活躍している様子を見て、女子教育の必要性を感じ、伊藤博文や勝海舟らとともに女子教育奨励会を創設し、翌年には東京女学館を設立しました。

東京女学館（現・渋谷区広尾）は、千代田区永田町の衆議院議長公邸の石垣に発祥の地のプレートが埋め込まれています。


（右）成瀬仁蔵　提供：日本女子大学成瀬記念館

【日本初の女子の高等教育機関の誕生】

さらに 1896 年、大隈重信を介して成瀬仁蔵と面会し、女子大学校設立運動の協力を要請された栄一は、成瀬の熱意に動かされ、1901 年に日本女子大学校（現・日本女子大学）の創立に携わりました。現在の文京区目白台に建てられましたが、この土地は栄一とともに設立に尽力した女性実業家広岡浅子の実家である三井家が提供しました。栄一は、この日本女子大学校には多額の寄付を行うとともに、1907 年には、寮を寄贈していています。純洋風のこの寮は、栄一自ら「晩香寮」と命名しました。成瀬亡き後も、卒業式や創立記念日に来校し、生徒に講話を行いました。

栄一は、1931 年 4 月から死去する 11 月まで、91 歳の高齢で日本女子大学校の第 3 代校長を務めました。「12 月 18 日、講堂において追悼会が開催された。一堂に会した生徒たちは、近代日本を代表する実業家であると同時に「私達のやさしいお祖父様」であった校長の死を悼んだ。」とあります。『日本女子大学学園辞典』

栄一の著した「論語と算盤」にも、第九章「教育と情誼」には、「女性にも男性と同じ国民としての才能や知恵、道徳を与え、ともに助け合っていかなければならない。」とあります。この思いを実現したのが、日本初の女子の高等教育機関である日本女子大学校の創立なのです。

大正 3 年の卒業写真　提供：日本女子大学成瀬記念
左から数えて 12 番目が成瀬、次いで栄一、大隈重信、ノリタケで有名な森村市左衛門の順で写っています。創立に尽力された方々です。（右図は拡大したもの）